平成16年（2004年）3月19日

廃棄物学会ニュース　No.79
The Japan Society of Waste Management Experts　廃棄物学会

廃棄物学会１年の歩み

平成15年は新型肺炎SARSが猛威をふるって多くの感染者や死者を出し、WHOによるSARS終息宣言が行われるまでは、世界中を震撼させた。またイラク戦争の開戦や北朝鮮の核保有宣言など、平和な年というにはほど遠い一年となった。

廃棄物の関連では、循環型社会形成推進基本法に基づき、「循環型社会形成推進基本計画」が制定され、物質フロー、取組の数値目標が示されるとともに国民、事業者、NPO・NGOなどの役割が明記された。また、不法投棄の未然防止、リサイクルの促進、廃棄物の適正処理等のための廃棄物処理法の改正が行われ、循環型社会形成に向けて具体的な取組体制が整備された。

廃棄物学会の活動では、中国・四国支部、東海・北陸支部、東北支部が新たに設立され、地域活動が活発になってきている。また、研究発表会講演論文集にCD-ROM版が導入されるなど、会員のニーズの応える活動が着実に進められた。

平成15年の活動状況

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
1月24日	支部設立総会、設立記念シンポジウム（中国・四国支部）	岡山市	支部設立総会（規約、役員、事業計画、予算案） シンポジウム「地球温暖化防止とバイオマス利用技術」
1月30日	第4回セミナー（北海道支部）	札幌市	「使用済み自動車の処理・リサイクルの現状と課題」
2月14日	特別セミナー（企画委員会）	港区	「新エネルギー政策の進展と廃棄物関連エネルギー事業」
2月22日	支部設立総会、記念講演会・市民フォーラム（東海・北陸支部）	名古屋市	支部設立総会（設立趣意書、規約、組織、常議員） 記念講演「廃棄物問題と市民運動」 市民フォーラム「生ごみの減量化に挑む」
3月31日	市民フォーラム（九州支部）	福岡市	「ごみについて徹底討論しよう!!」 ―将来世代に持続可能な社会をつなぐために―
4月12日	市民と学生のためのセミナー（関西支部）	大阪市	「市民と学生のためのセミナー～循環型社会の途上で～」
5月16日	講演会（中国・四国支部）	広島市	「水・大気・廃棄物中のダイオキシン問題の現状と課題について」 (大気環境学会、日本水環境学会の中国四国支部と合同開催)
5月27日	平成15年度総会 平成14年度廃棄物学会賞表彰式	千代田区	総会（平成14年度事業報告・収支決算・監査報告、平成15年度事業計画・収支予算）
5月27日～28日	平成15年度研究シンポジウム（研究委員会、年会委員会）	千代田区	「産業廃棄物不法投棄を考える」、「廃棄物サーマルリサイクルのフロント」、「廃棄物適正処分における被覆型処分場の位置づけ」、「一般廃棄物有料化の問題」、「循環型社会形成推進のために試験検査法が果たすべき役割」、「循環型共生社会の構築に向けた廃棄物計画」

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
7月24日	支部設立総会、記念シンポジウム（東北支部）	仙台市	支部設立総会（規約、役員、事業計画、収支予算計画） 特別講演「3R政策の現状と課題」 パネルディスカッション「地域に密着した紙のリサイクルの在り方」
7月26日	支部総会・講演会（九州支部）	福岡市	総会（平成14年度報告および平成15年度計画） 講演「環境NPOの現状と廃棄物学会九州支部の果たす役割」他
10月22日～24日	第14回研究発表会（年会委員会）	つくば市	研究発表(40セッション)、小集会(8部会)、特別講演、日韓シンポジウム、優秀ポスター賞表彰 (参加者数：1,313名)
11月8日	見学会（九州支部）	久留米市	視察研修：最終処分場、焼却施設、廃油利用収集車等 研究集会：ごみ処理・経費の概要、最終処分場整備と合意形成
11月21日	講演会・セミナー（中国・四国支部）	宇部市	講演「エコタウン事業の展開と持続可能なリサイクルのあり方」（山口県ゼロエミッションサロンと共催）
11月25日	支部総会、見学会・技術セミナー（関西支部）	草津市	支部総会（平成14年度報告及び平成15年度計画） 見学会（滋賀県湖南浄化センター） 技術セミナー「廃棄物の炭化処理と有効利用の現状と課題」
11月27日	平成15年度シンポジウム（企画委員会）	千葉市	「容器包装リサイクル法の検証－10年目の改正に向けて」
11月29日	シンポジウム（中国・四国支部）	岡山市	「建設廃棄物を活かして　～岡山で何が可能か～」
11月29日	市民フォーラム（九州支部）	福岡市	「ごみについて徹底討論しよう！！」―将来世代に持続可能な社会をつなぐために―

□■□■　**企画委員会**　□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成15年度シンポジウム　　**平成15年11月27日**

「容器包装リサイクル法の検証―10年目の改正に向けて―」開催報告

平成15年度廃棄物学会シンポジウム「容器包装リサイクル法の検証―10年目の改正に向けて―」が、11月27日幕張メッセにてウェステック2003と併催された日本廃棄物会議の中で開催された。

平成7年度に施行された容器包装リサイクル法は、10年後の見直しが規定されている。そこで、本シンポジウムでは、容器包装リサイクル法の現状を整理し、技術的、制度的、経済的な課題について幅広い議論を行い、法見直しの検討に反映させることを目的に企画された。はじめに、廃棄物学会企画委員会の大嶋茂男氏よりシンポジウムの趣旨と消費者の立場から見た問題点が提起された。さらに、環境省の藤井康弘氏、(社)全国都市清掃会議の庄司元氏、イオンモール㈱の松井正子氏、京都大学の植田和弘氏より、それぞれの立場からリサイクル法の問題点や見直しに関する意見等について講演をいただいた。

つづいて、山本耕平企画委員のコーディネーターでパネルディスカッションを行った。会場からも多くの質問が出て、活発な議論が展開された。

最後に法律のわかりやすさ、定量的なデータに基づいた理念の整理、費用の効率性、公平性が指摘され、今後も引き続き学会等で幅広い議論を継続することを確認し、約100人が参加者したシンポジウムは盛会裡に終了した。　　（企画委員会　臼井直人　記）

▲　シンポジウムの様子

□■□ 九州支部 ■□■□

九州支部市民フォーラム開催報告

平成15年11月29日

「ごみについて徹底討論しよう!!」－将来世代に持続可能な社会をつなぐために－

平成15年11月29日（土）に福岡市健康づくりセンター「あいれふ」にて九州支部市民フォーラム「ごみについて徹底討論しよう!!」が開催され、会員及び非会員を含め約50名の参加があった。

はじめに水俣市環境クリーンセンターの久木田一也所長から「先進地における取り組み―水俣市の事例について―」と題して話題提供をしていただいた。生ごみの分別収集については驚くべき効果で、異物の混入も少なく、重量ベースで燃やすごみが40%減少した。これにより、ごみ総量が17%減少し、資源化率は42%に向上したとのことであった。コメンテーターからこの話題について関連する意見を述べてもらった後、会場の参加者から意見をいただき、熱い議論へと展開する流れであった。市民、事業者、行政、研究者の間で繰り広げられた議論は、「コストの中身を見る必要があり、ライフサイクルコストでコストが高くても人件費で雇用を創出するのであれば、社会保障という面からはよいコストも有りえるのでは？」「水俣の最大の特徴は地元学に根ざしていることではないか」など活発な議論が交わされた。参加者がいかに日頃から水俣市の取り組みに注目し、意識しながらさまざまな活動を行っていることが実感できた。さらには、積極的に環境モデル都市として取り組む水俣市が九州に存在することの価値を感ずることのできる会であった。

次回の市民フォーラムは、会員、市民、事業者、行政の皆様が参加しやすい時期に開催したいと思いますので是非議論の輪にご参加ください。

(九州支部　鈴木慎也　記)

▲　市民フォーラムの様子

□■□ 北海道支部 ■□■□

北海道支部第5回セミナー開催報告

平成16年1月27日

「土壌・地下水汚染対策の現状と課題　－北海道の環境保全を目指して－」

北海道地区では支部が結成以前からその時々のホットな話題に関するセミナーを年1回のペースで開催してきた。本年度は、この第5回目として「土壌・地下水汚染対策の現状と課題　–北海道の環境保全を目指して-」と題したセミナーを1月27日に開催した。このセミナーは、一般にも公開されており、学会員のみならず、業界・行政関係者そして学生の皆さんなど多方面から約140名の参加者を得た。

セミナーは、道内外から専門家として白鳥寿一氏（同和鉱業㈱）、亀和田俊一氏（地盤環境技術センター）、竹ヶ原啓介氏（日本政策投資銀行）、広田知保氏（北海道立地質調査所）、服部修一氏（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の5名をパネリストとしてお招きし、各パネリストの方々の講演とパネル討論（コーディネーター：五十嵐敏文北海道大学助教授）の二部構成で行った。講演では、土壌・地下水汚染対策に関する技術的側面はもちろんのこと、法的側面や経済的側面などについても議論された。また、国内外の土壌・地下水汚染とその対策に関する事例や道内の事例も紹介された。パネルディスカッションでは、土壌・地下水汚染の対策に関して種々の未解決な問題のあることが指摘され、聴衆からの質問も多数得て、今後の対策のありよう、あるべき姿などに関して活発な議論が行われた。

（北海道支部　広吉直樹　記）

▲　パネルディスカッションの様子

平成 16 年度総会開催のお知らせ

平成 16 年度総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様の参加をお願い申し上げます。なお、正会員各位には、5 月上旬に総会資料をお送りいたします。総会に参加できない正会員の方は、総会資料に綴じこんである**委任状を忘れずにお送り下さい。**

また、総会終了後、懇親会（有料）を予定しております。併せてご参加下さい。

開催日時：平成 16 年 5 月 27 日（木）17：30～

開催場所：川崎市産業振興会館　1 階ホール　（神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20 Tel:044-548-4111）

※総会は、平成 16 年度研究討論会と同時に開催されます。開催場所の案内図は、同封の別紙「平成 16 年度研究討論会開催要領」をご覧下さい。

廃棄物学会ニュースの発信方法の変更

廃棄物学会ニュースは、現在会員各位に印刷したものを郵送するとともに、廃棄物学会ホームページ（下記参照）に掲載しております。No.81（平成 16 年 7 月発行予定）からはホームページへの掲載を基本とし、印刷したものは、ご希望の方にのみ郵送させていただくことなりました。従来どおり郵送をご希望の方は、同封の用紙により廃棄物学会事務局まで FAX、郵便または E-MAIL（nyukai@jswme.gr.jp）でご連絡をお願いいたします。

北海道大学大学院工学研究科廃棄物管理工学分野、バイオリサイクル工学（クボタ）講座主催

第２回循環型共生社会懇談会

開催日時：平成 16 年 4 月 26 日(月)　13:00～16:30
開催場所：全国町村会館（東京都千代田区）
参 加 費：無料
問合せ先：廃棄物管理工学分野　TEL：011-706-7284
プログラム（予定）
第一部　ダイオキシン類の微生物分解技術の開発に関する研究
第二部　循環型共生社会に向けたバイオ技術の新たな展開
詳　細は、http://kanri.eng.hokudai.ac.jp/（廃棄物管理工学分野のホームページ）をご覧ください。

会 員 状 況	H16.2.29 現在 （　）内は、H15.4.1 以降の増減
正 会 員	3,684（128）
学生会員	333（ 66）
外国人会員（DM）	24（ 6）
登録団体市民会員	3（ 3）
公益会員	113（ 1）
賛助会員	190（-16）
計	4,347（188）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.79　　平成16年3月19日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率 100%再生紙を使用しています

＝事務局からのお願い＝

○会員の皆様には、3 月末に平成 16 年度会費納入のお願いを送らせて頂きます。5 月 31 日までに納入下さいますようお願いいたします。

○学生会員の方には、会費納入のお願いに同封して会員資格変更届も送付いたします。卒業された方は正会員となりますので、新しい連絡先を記入の上、FAX または郵送してください。

○転居、異動等で連絡先に変更のある方は、学会事務局まで FAX または郵便にてお知らせください。

○退会される方は、退会届を FAX または郵送してください。会員番号、名前、退会する旨の一文があれば書式は問いません。

☆☆事務局だより☆☆

小泉首相が、国内最大級の産業廃棄物の不法投棄現場として知られる豊島を今年の新年早々に視察された。ごみゼロ作戦や不法投棄撲滅への取り組みをアピールする狙いとのことであるが、現場での滞在僅か 30 分足らずではどれだけの理解をいただけたのか。支持率アップの単なるパフォーマンスと云われても仕方のないところでは･･･。▼産業廃棄物を来年度より市町村の焼却施設での受入処理が本格的にスタートすることになった。ダイオキシン対策で施設が大型化され処理能力に余力が出来た背景によるが、ダイオキシン規制の強化で小型産廃炉が廃炉されている事例が多いので、不法処理の防止につながれば結構なことである。ただ、産廃処理による住民の不安を取り除く努力が行政に求められるだろう。▼リサイクル家電の一部が横流しされ、リサイクル処理されていないことが発覚した。消費者はリサイクル券により追跡・確認がパソコン等で出来るのであるから、その行方について最後まで関心を持つ必要がある。ところで、廃家電を無料で引き取りますと云って住宅地を巡回している業者が引取った廃家電は一体どこへ行っているのだろうか。家電リサイクル法のもと、回収車が来る毎に、いつも不思議に想うことである･･･。(A.N.)